

岡山県感染症週報 2016年 第18週 (5月2日～5月8日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2016年 第18週 (5/2～5/8) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第16週 4類感染症 E型肝炎 1名(80代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名(70代 男 2名)
 侵襲性肺炎球菌感染症 2名(60代 男 1名、70代 男 1名)
- 第17週 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男)
 水痘(入院例に限る) 1名(70代 男)
- 第18週 2類感染症 結核 2名(50代 女 1名、80代 男 1名)
 4類感染症 つつが虫病 1名(80代 女)
 5類感染症 アメーバ赤痢 1名(40代 男)
 ウイルス性肝炎 1名(50代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 46 名(定点あたり 1.18 → 0.55 人)の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 270 名(定点あたり 5.48 → 5.00 人)の報告があり、前週より減少しました。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で 83 名(定点あたり 1.19 → 1.54 人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第19週 速報】

- 重症熱性血小板減少症候群 1名(80代 女)の発生がありました。(5月12日)
- 岡山県では 5 例目の感染確認です。

[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。\(岡山県感染症情報センターホームページ\)](#)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 46 名(定点あたり 1.18 → 0.55 人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、備北地域(2.00 人)、美作地域(0.90 人)、真庭地域(0.67 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は、『インフルエンザ注意報』を発令し、注意喚起を図っています。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 270 名(定点あたり 5.48 → 5.00 人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市(7.73 人)、美作地域(6.83 人)、備前地域(5.90 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「感染性胃腸炎週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. [流行性耳下腺炎\(おたふくかぜ\)](#)は、県全体で 83 名(定点あたり 1.19 → 1.54 人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、備北地域(4.25 人)、倉敷市(2.09 人)、岡山市(1.93 人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市(0.73 → 1.18 → 2.09 人)では、2週連続で増加しました。また、備北地域では、他の地域と比較して多い状態が続いており、発生レベル 3 が継続しています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少
 : 1.1～2 倍未満の増加
 : 1.1～2 倍未満の減少
 : 2 倍以上の増加
 : 1.1 未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

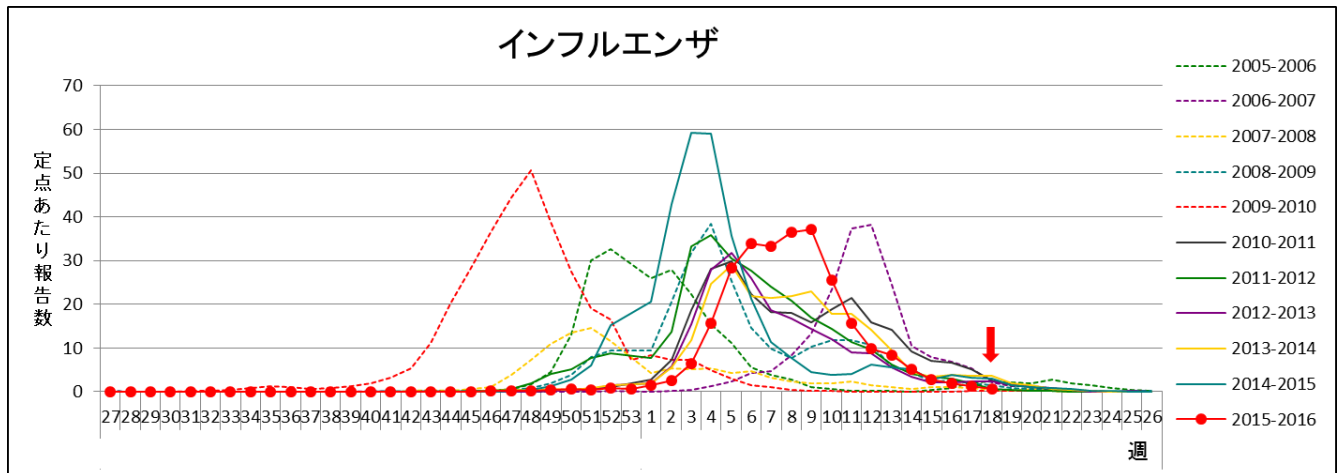
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

インフルエンザ週報 2016 年 第 18 週 (5 月 2 日 ~ 5 月 8 日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 46 名（定点あたり 0.55 人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 46 名（定点あたり 1.18 → 0.55 人）の報告があり、第 9 週以降、患者報告数は減少してきています。地域別では、備北地域（2.00 人）、美作地域（0.90 人）、真庭地域（0.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。ほとんどの地域で患者報告数が減少していますが、備北地域（1.00 → 2.00 人）では、前週より増加しました。岡山県は「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。

流行は終息に向かっているものの、患者が再び増加している地域があることから、ひきつづき手洗いなど感染予防に努めてください。また、症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

◆インフルエンザは、まだ流行しています ひきつづき感染予防に努めましょう

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50~60%)を保ちましょう。

【 かかったかな？という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	46	↓	備 中	患者数	4	↓
	定点あたり	0.55			定点あたり	0.33	
岡山市	患者数	8	↓	備 北	患者数	12	↑
	定点あたり	0.36			定点あたり	2.00	
倉敷市	患者数	10	↓	真 庭	患者数	2	↘
	定点あたり	0.63			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	1	↓	美 作	患者数	9	↘
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.90	

【記号の説明】 前週からの推移

↓：2倍以上の減少

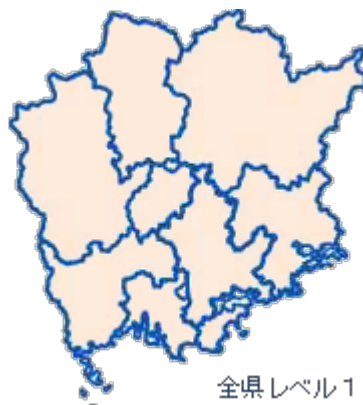
↘：1.1～2倍未満の減少

→：1.1未満の増減

↗：1.1～2倍未満の増加

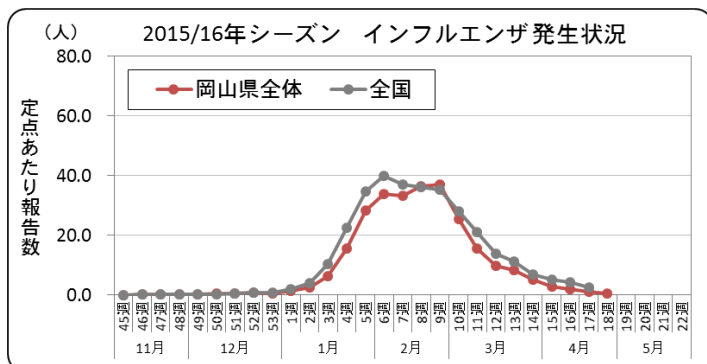
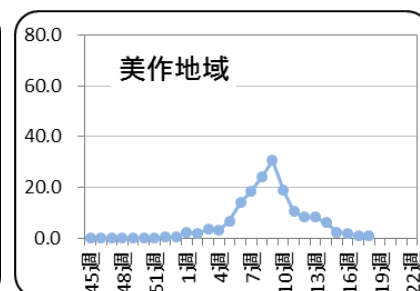
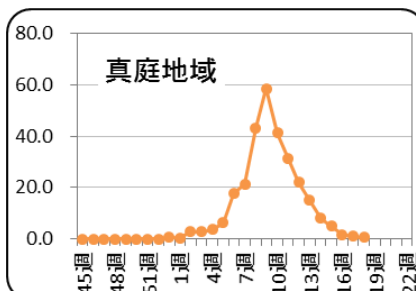
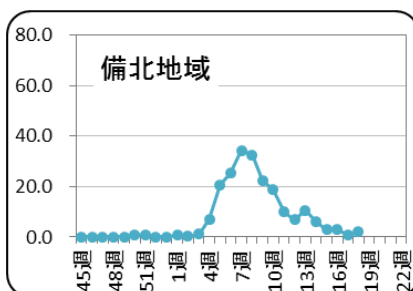
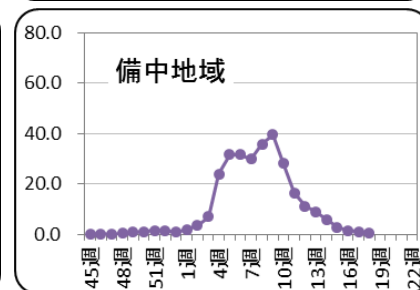
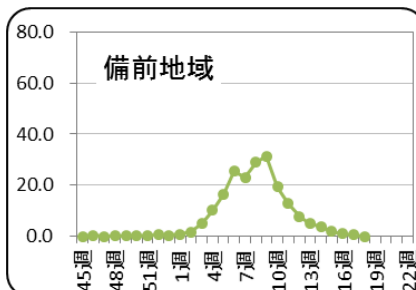
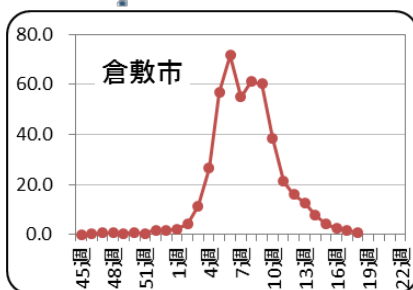
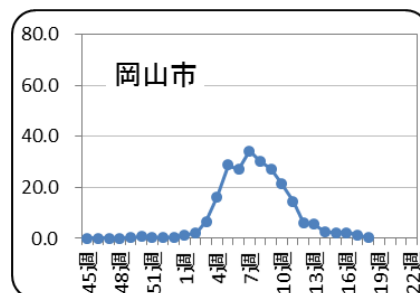
↑：2倍以上の増加

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

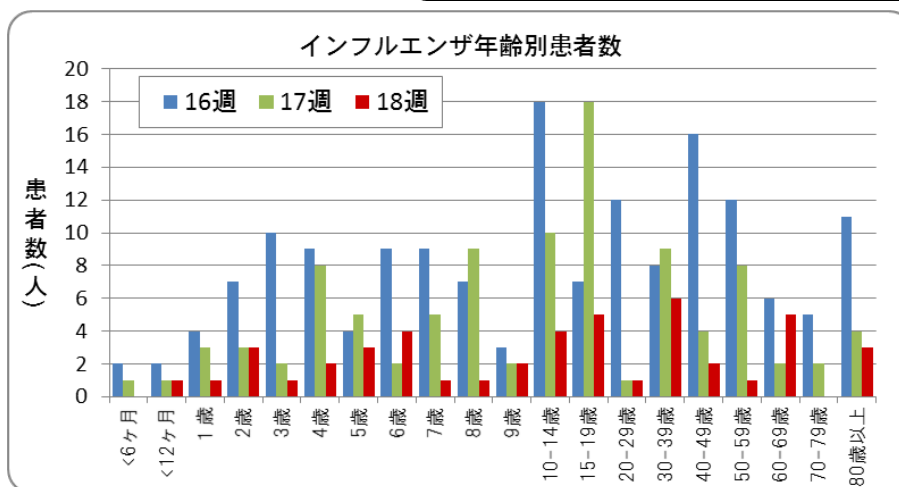
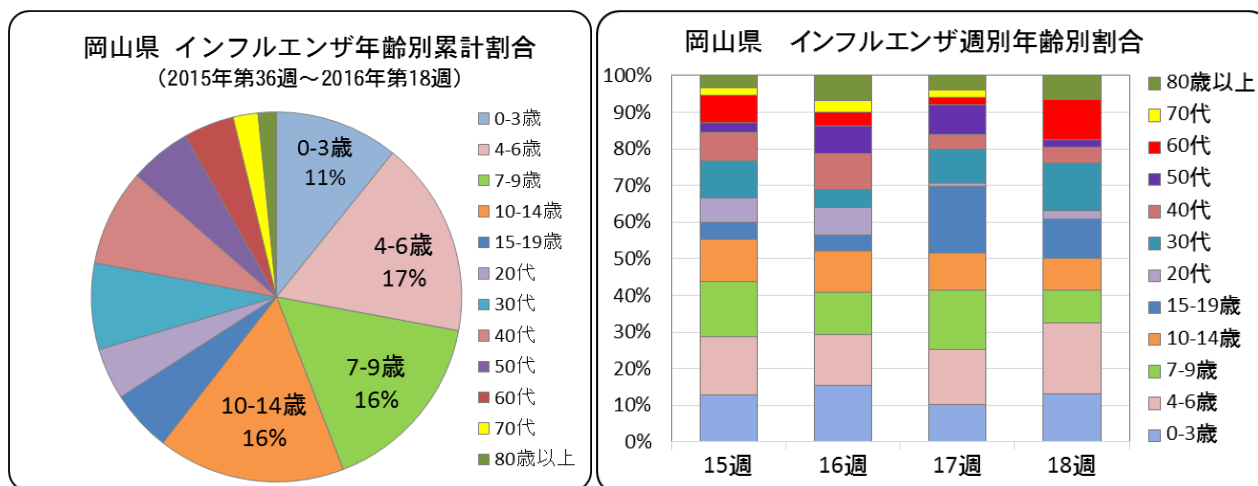
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値	基準値	基準値
0< 10未満	0	0



全国集計第17週(4/25～5/1)速報値によると、全国の定点あたり報告数は2.51人となり、前週(4.22人)より減少しました。都道府県別では、秋田県(11.02人)、岩手県(9.03人)、新潟県(7.83人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、全都道府県で前週の報告数より減少しました。

2. 年齢別発生状況

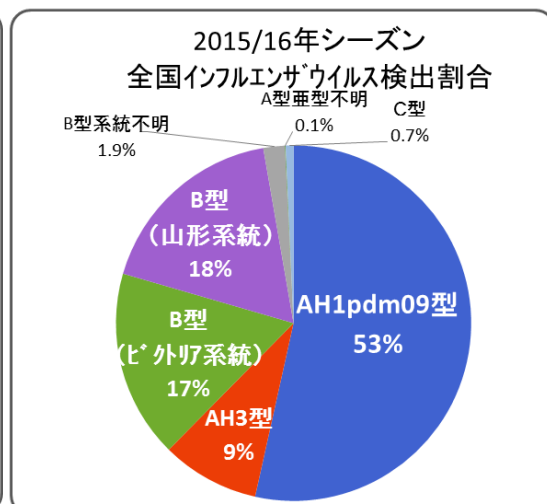
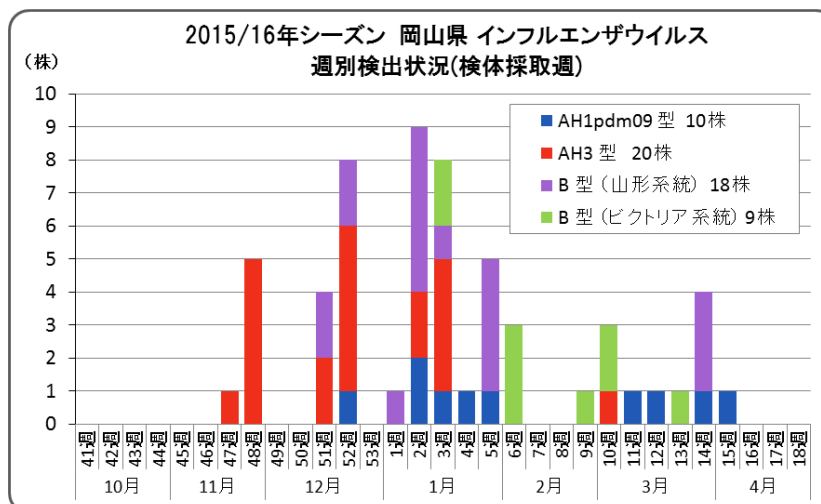
今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 17%、7-9歳・10-14歳 各16%、0-3歳 11%の順で高くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

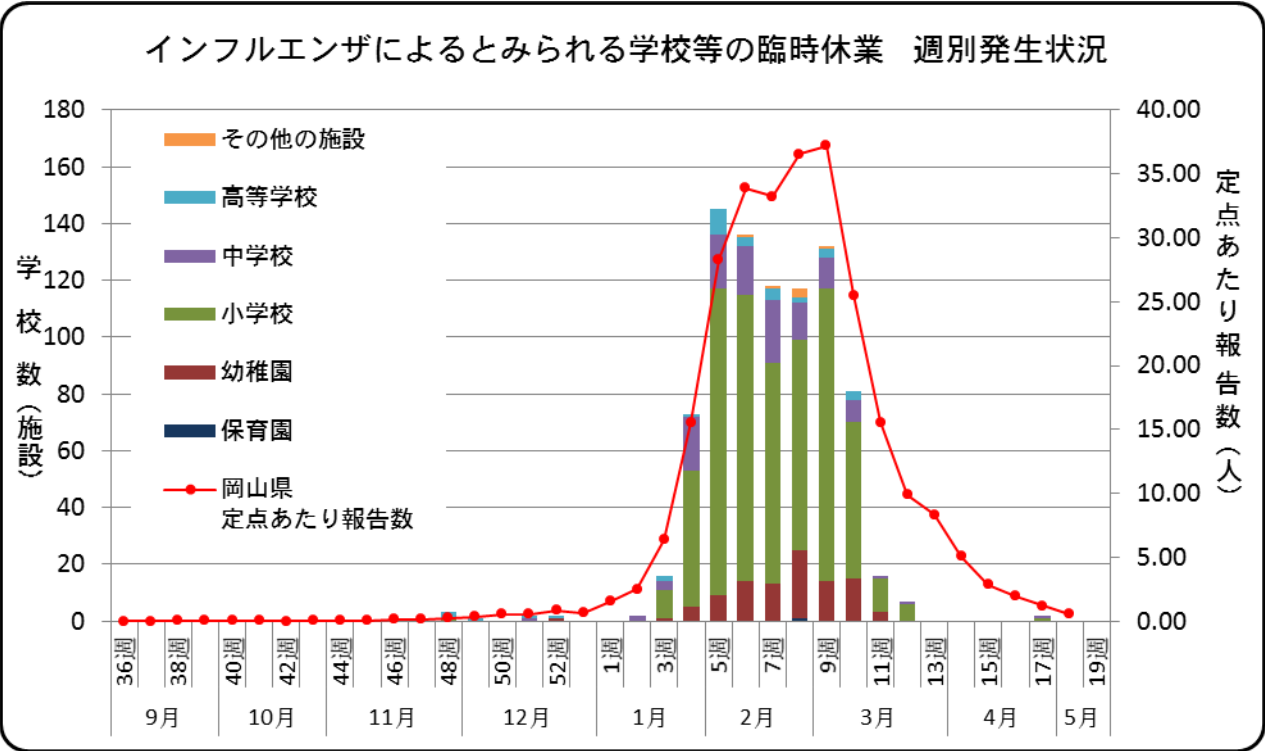
第18週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、B型 27株〔山形系統 18株・ビクトリア系統 9株〕(48%)、AH3型 20株 (35%)、AH1pdm09型 10株 (17%) となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型の検出割合が最も多く53%、次いでB型が35%〔ビクトリア系統 17%・山形系統 18%〕、AH3型が9%の順となっています。(2016年5月6日現在)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	13146	0	10060	0	853	0	20	0	197	0	636	H27.11.24
岡山市	0	5048	0	3741	0	292	0	2	0	41	0	249	H27.11.24
倉敷市	0	3670	0	2823	0	225	0	6	0	18	0	201	H27.12.15
備前地域	0	1152	0	945	0	90	0	1	0	40	0	49	H27.11.24
備中地域	0	1784	0	1425	0	132	0	0	0	36	0	96	H27.11.24
備北地域	0	316	0	222	0	32	0	3	0	25	0	4	H28. 2. 3
真庭地域	0	315	0	284	0	23	0	2	0	19	0	2	H28. 2. 1
美作地域	0	861	0	620	0	59	0	6	0	18	0	35	H28.1.25

2) 臨時休業施設数の内訳

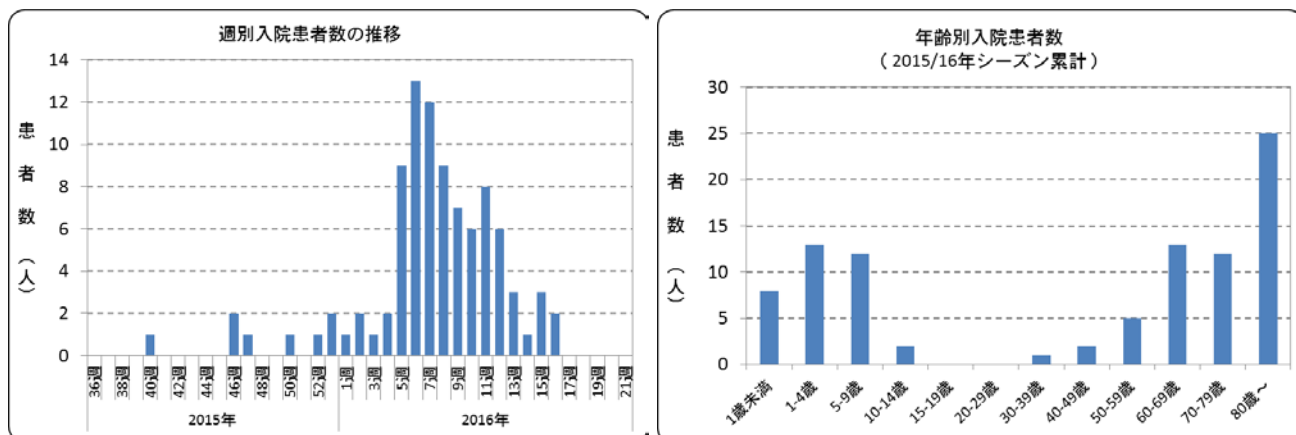
第 18 週 : 0 施設 累計 : 853 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	0	99	0	597	0	118	0	32	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



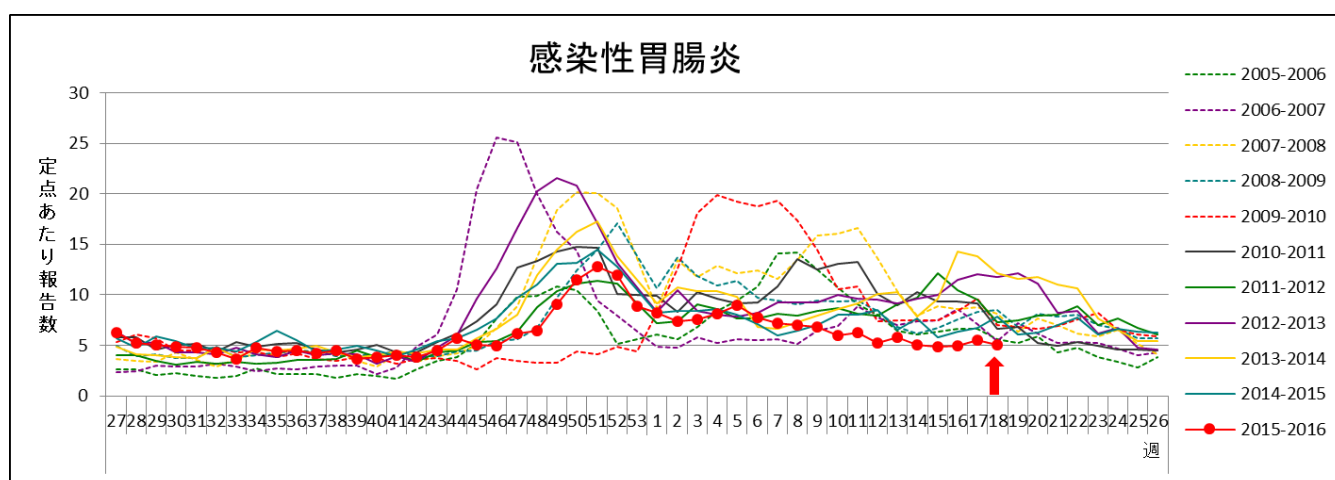
【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	8	13	12	2			1	2	5	13	12	25	93
ICU 入室 *			1						1	1	1		4
人工呼吸器の利用 *			1						1	1	1		4
頭部 CT 検査(予定含) *		5							1	3	1	6	16
頭部 MRI 検査(予定含) *		2		1						1		1	5
脳波検査 (予定含) *		1	1										2
いずれにも該当せず	8	7	11	1			1	2	2	9	9	19	69

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2016 年 第 18 週 (5 月 2 日 ~ 5 月 8 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 270 名（定点あたり 5.48 → 5.00 人）の報告がありました。（54 定点医療機関報告）

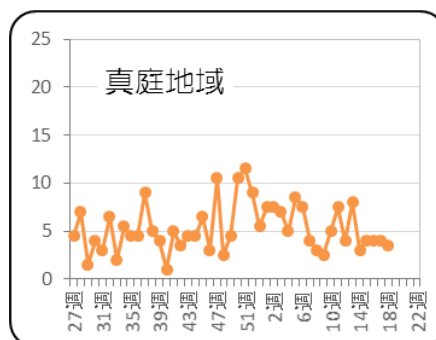
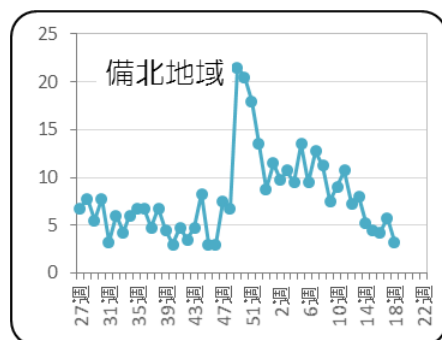
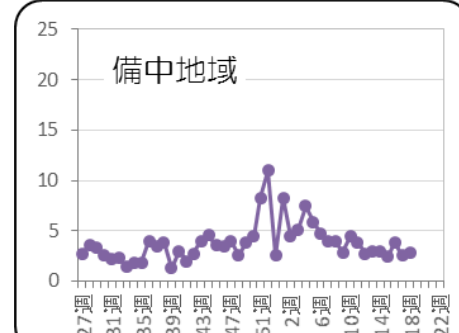
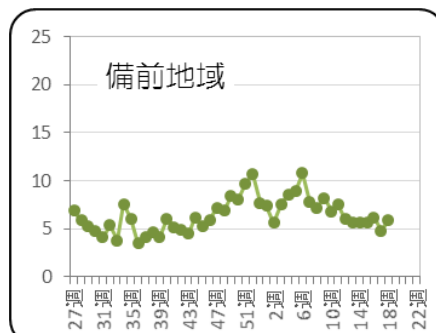
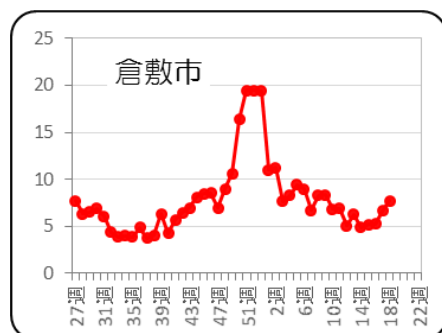
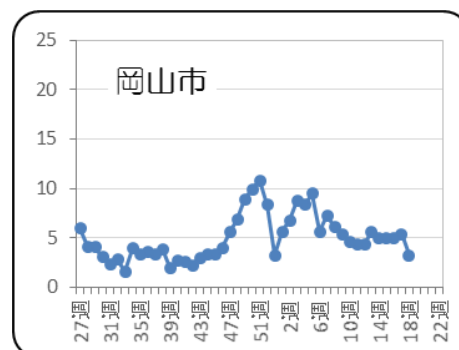
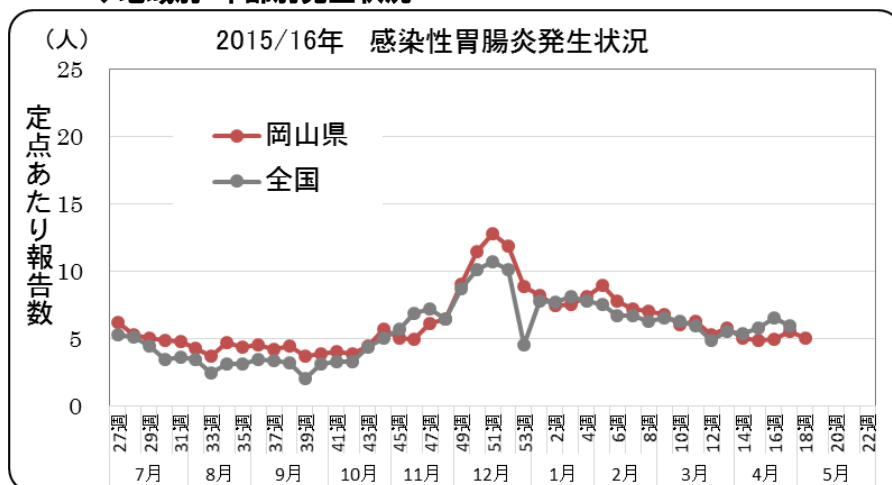


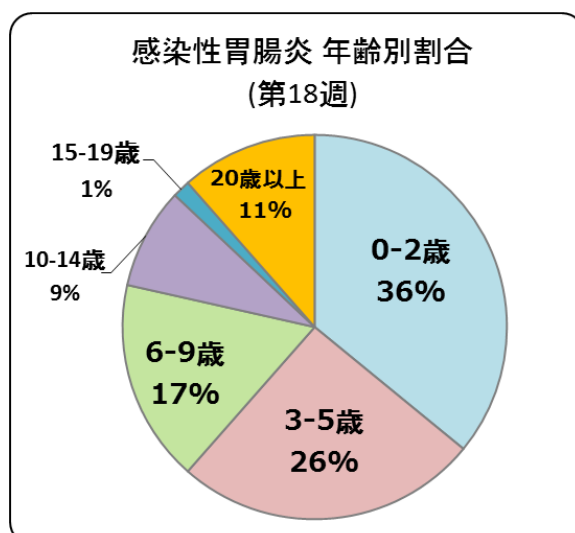
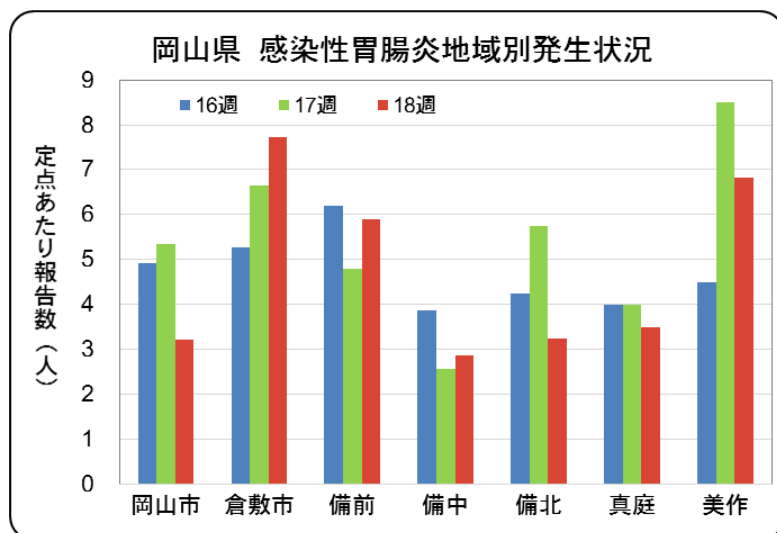
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 270 名（定点あたり 5.48 → 5.00 人）の報告があり、前週より減少しました。例年と比べて、患者報告数は少ない状態ですが、依然として患者の発生は続いています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。排便後、調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・おう吐物を適切に処理するなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、倉敷市（7.73 人）、美作地域（6.83 人）、備前地域（5.90 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 18 週年齢別割合では、0～2 歳 36%、3～5 歳 26%、6～9 歳 17% の順となっています。

例年 3～5 月には、0～2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数 2016年 18週(定点把握)

(2016/05/02～2016/05/08)

2016年5月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	46	0.55	8	0.36	10	0.63	1	0.07	4	0.33	12	2.00	2	0.67	9	0.90
RSウイルス感染症	6	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	1.00
咽頭結膜熱	18	0.33	7	0.50	5	0.45	—	—	1	0.14	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	0.87	7	0.50	12	1.09	3	0.30	3	0.43	8	2.00	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	270	5.00	45	3.21	85	7.73	59	5.90	20	2.86	13	3.25	7	3.50	41	6.83
水痘	8	0.15	2	0.14	4	0.36	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
手足口病	4	0.07	—	—	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	11	0.20	1	0.07	8	0.73	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
突発性発疹	20	0.37	7	0.50	2	0.18	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	8	1.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	83	1.54	27	1.93	23	2.09	8	0.80	6	0.86	17	4.25	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 18週(発生レベル設定疾患)

(2016/05/02～2016/05/08)

2016年5月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	46	0.55	8	0.36	10	0.63	1	0.07	4	0.33	12	2.00	2	0.67	9	0.90
咽頭結膜熱	18	0.33	7	0.50	5	0.45	—	—	1	0.14	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	0.87	7	0.50	12	1.09	3	0.30	3	0.43	8	2.00	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	270	5.00	45	3.21	85	7.73	59	5.90	20	2.86	13	3.25	7	3.50	41	6.83
水痘	8	0.15	2	0.14	4	0.36	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
手足口病	4	0.07	—	—	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	11	0.20	1	0.07	8	0.73	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	83	1.54	27	1.93	23	2.09	8	0.80	6	0.86	17	4.25	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第18週 2016/05/02～2016/05/08)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	46	－	1	1	3	1	2	3	4	1	1	2	4	5	1	6	2	1	5	－	3

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	6	1	3	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	18	－	1	10	2	2	3	－	－	－	－	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	－	－	2	－	7	5	7	2	5	3	3	3	1	9
感染性胃腸炎	270	2	27	36	32	20	23	26	11	10	17	8	23	4	31
水痘	8	－	1	－	－	1	－	1	－	2	2	－	1	－	－
手足口病	4	－	－	1	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	1
伝染性紅斑	11	－	1	－	1	1	3	1	1	1	－	2	－	－	－
突発性発疹	20	1	8	10	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	83	－	1	3	9	9	15	14	8	5	7	2	4	－	6

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1

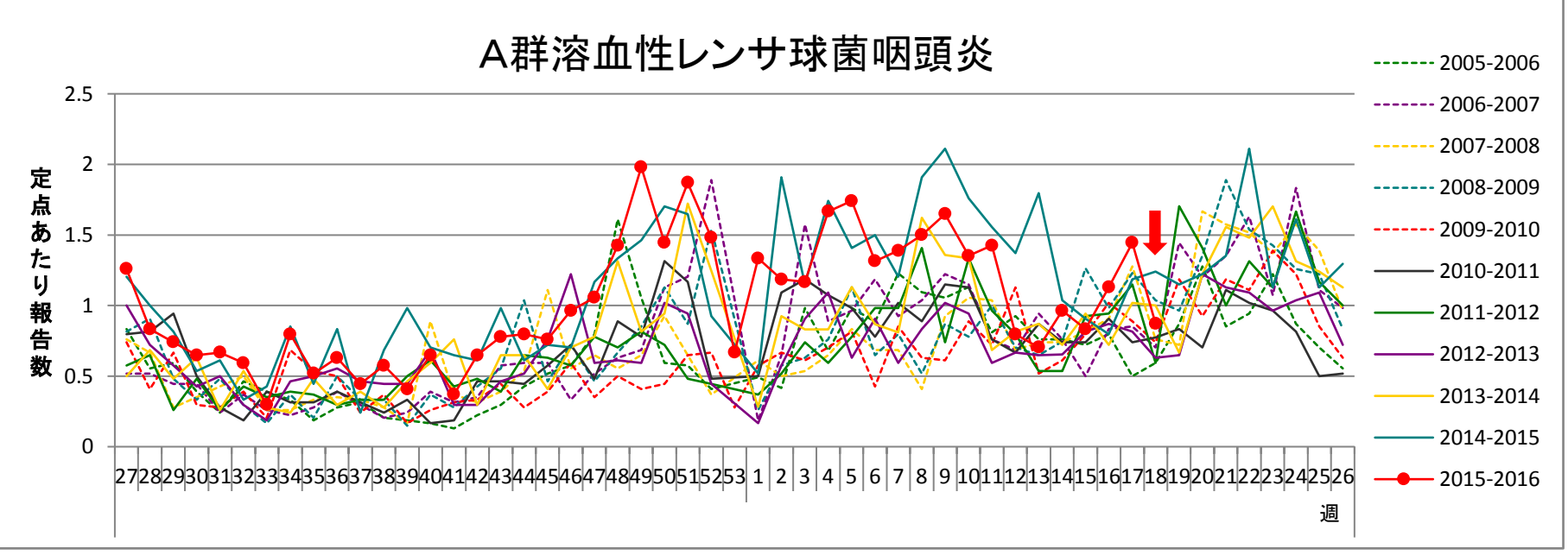
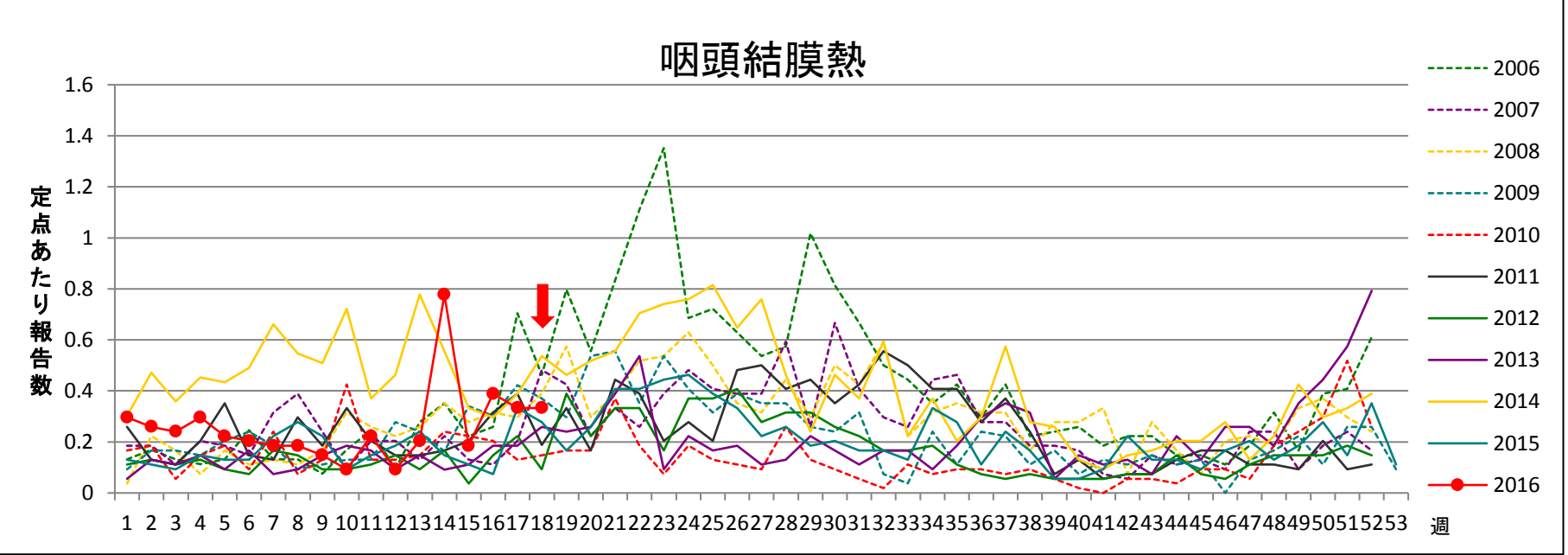
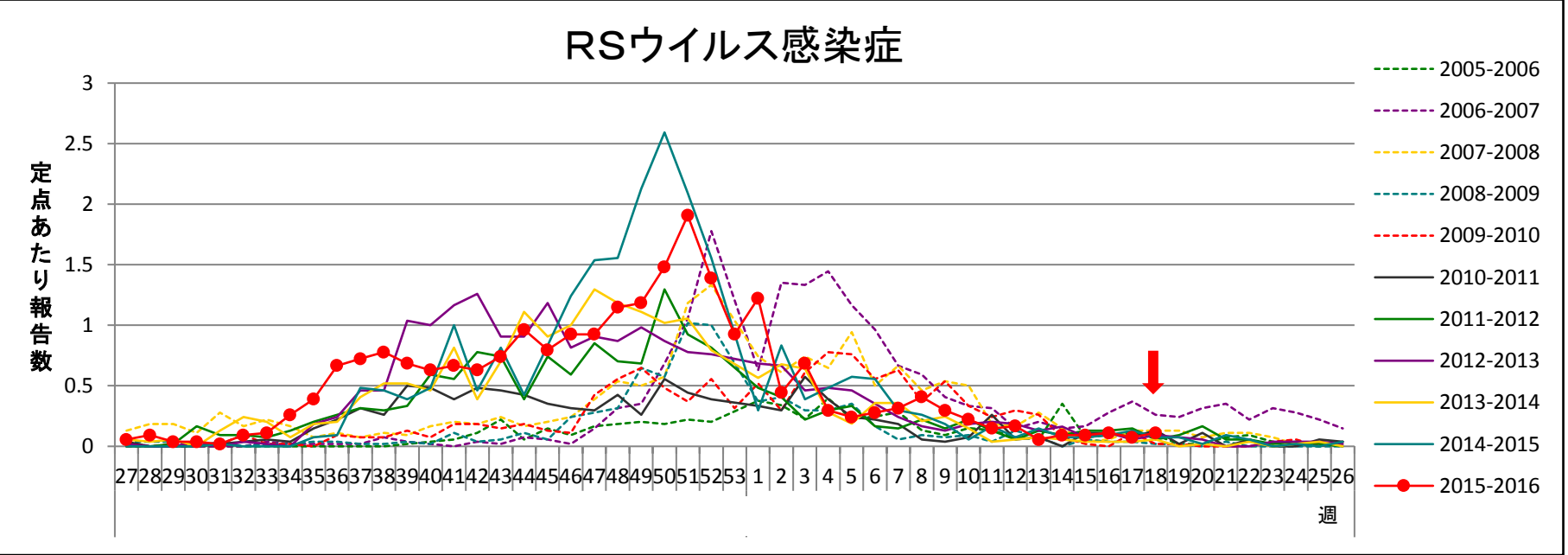
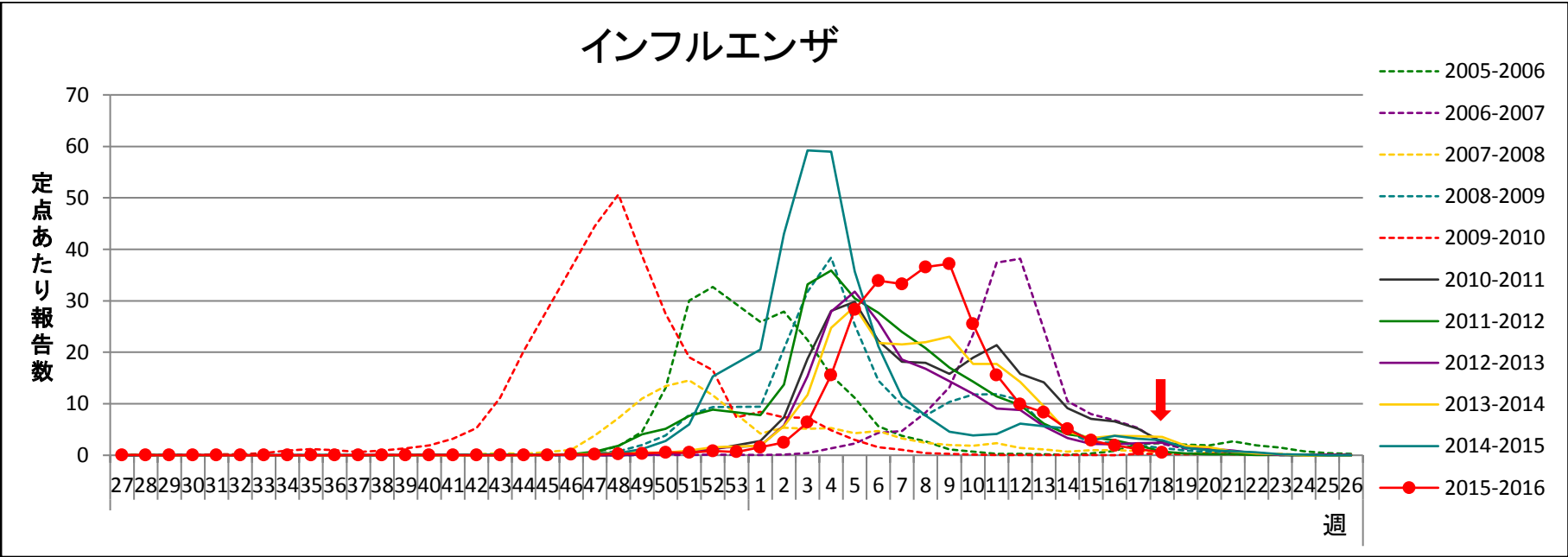
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

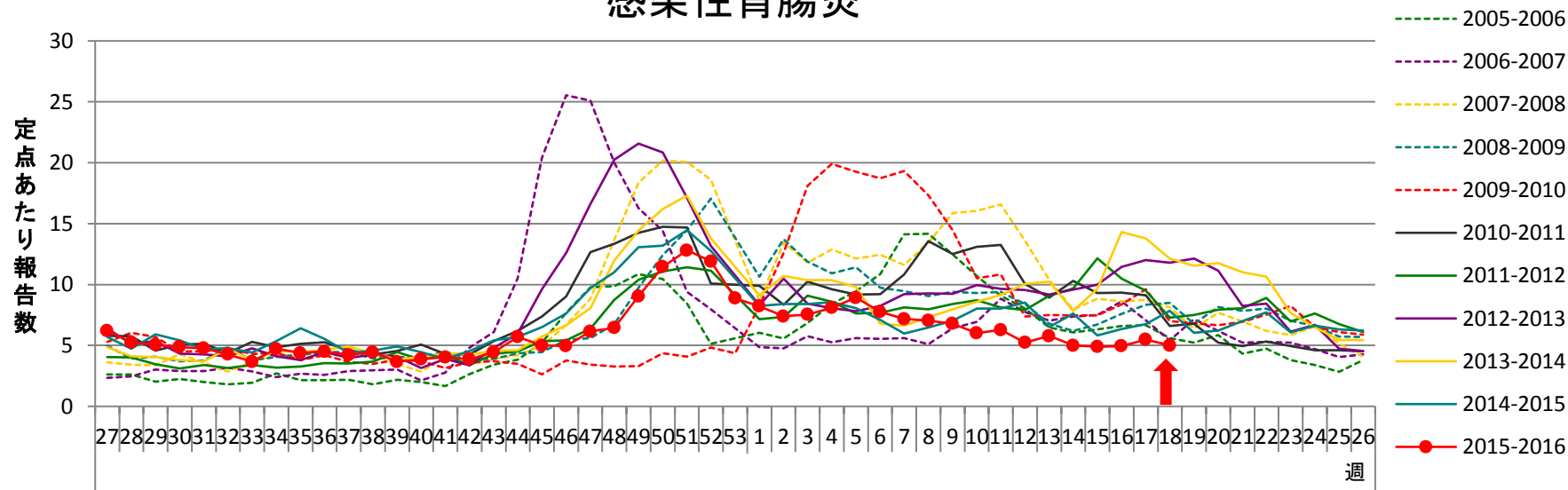
全数把握 感染症患者発生状況

2016 年 18 週

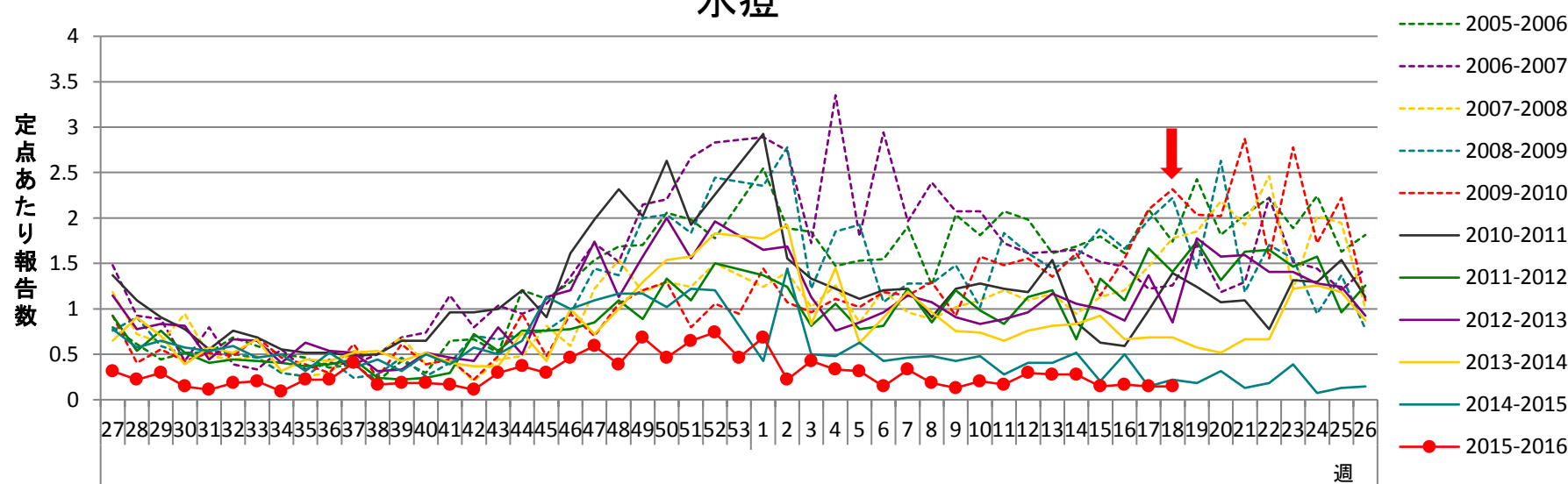
分類	疾病名	2016		2015	疾病名	2016		2015	疾病名	2016		2015
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	83	373	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	-	7	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	1	1	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	10	28
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	1	3	17	ウイルス性肝炎*3	1	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	7	34
	急性脳炎*4	-	3	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	2	後天性免疫不全症候群	-	2	21	ジアルジア症	-	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	14	35
	水痘(入院例に限る。)	-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	9	25
	播種性クリプトコックス症	-	1	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
	-	-	-		-	-	-		-	-	-	



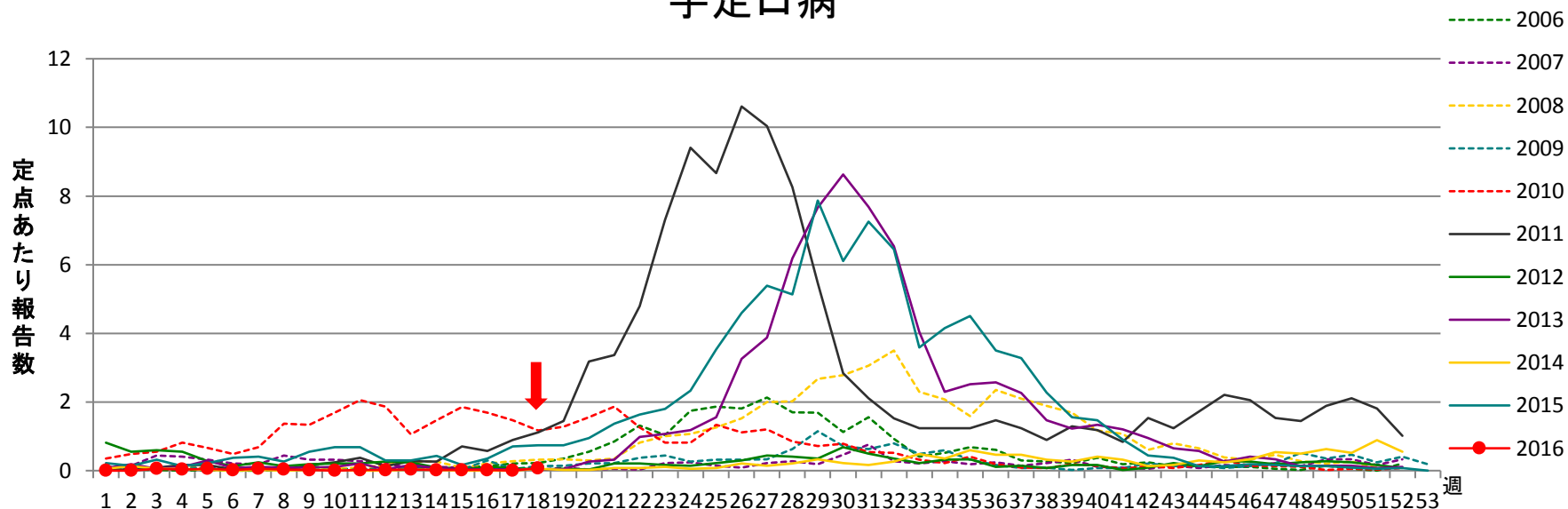
感染性胃腸炎



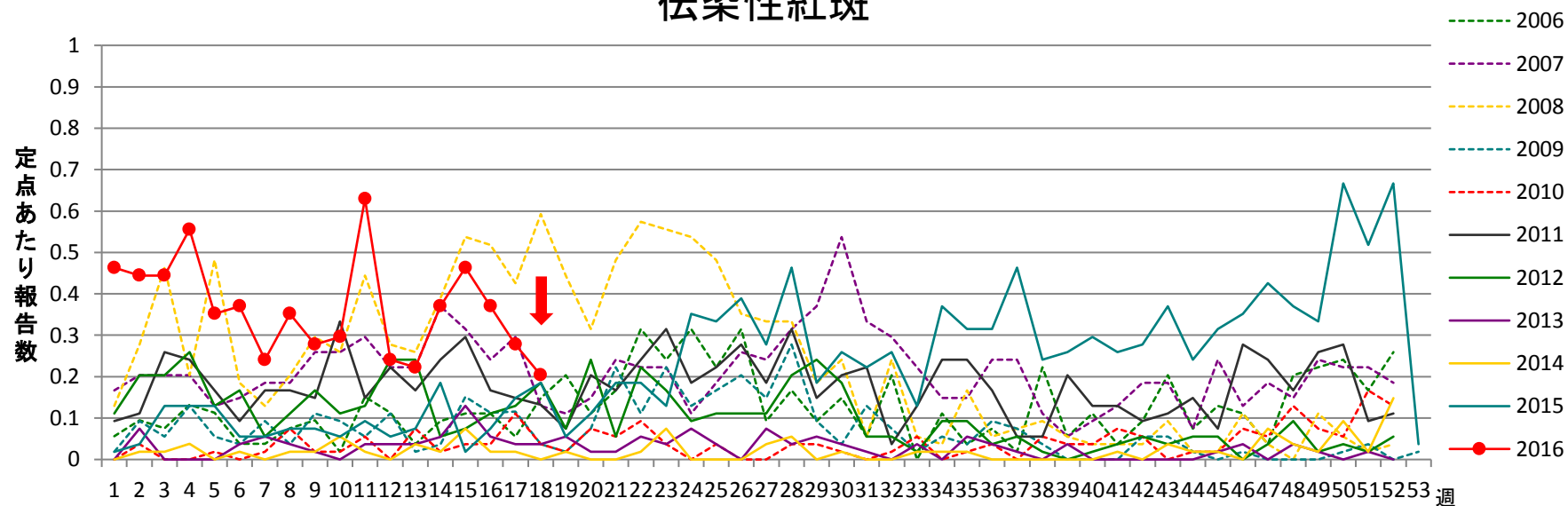
水痘



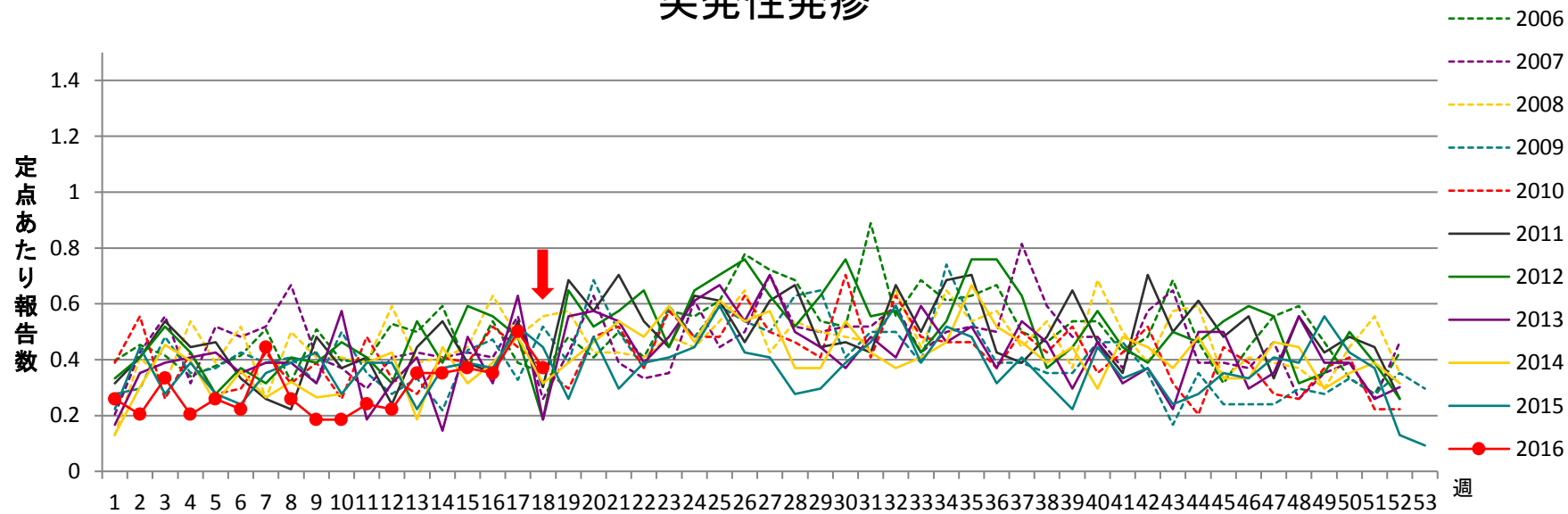
手足口病



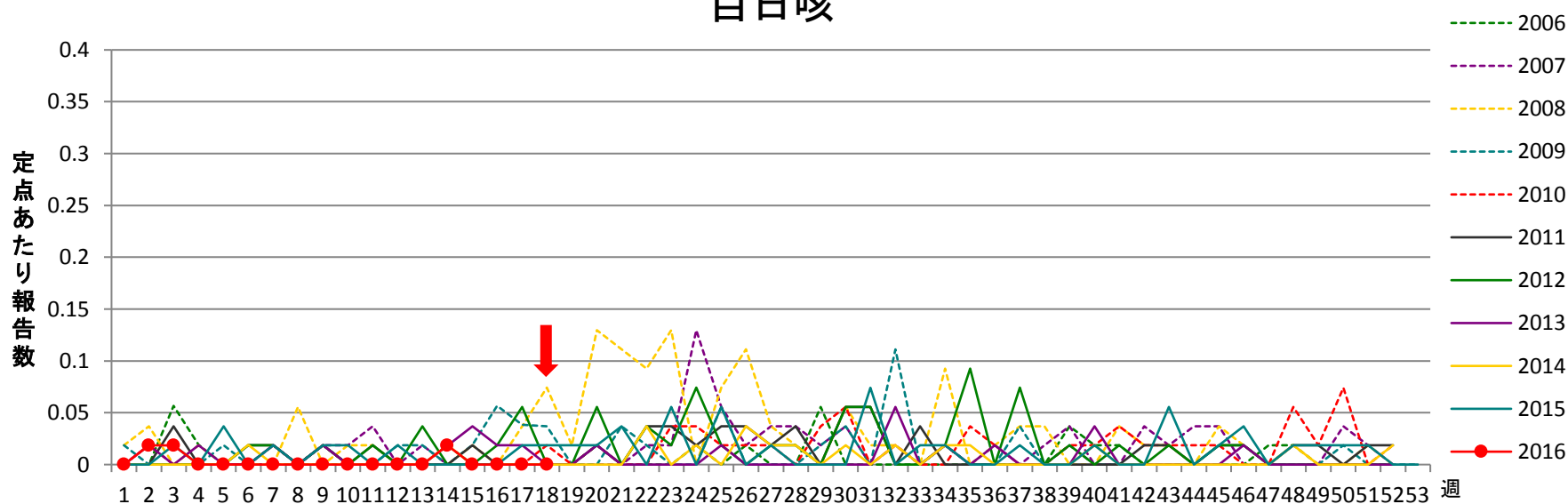
伝染性紅斑



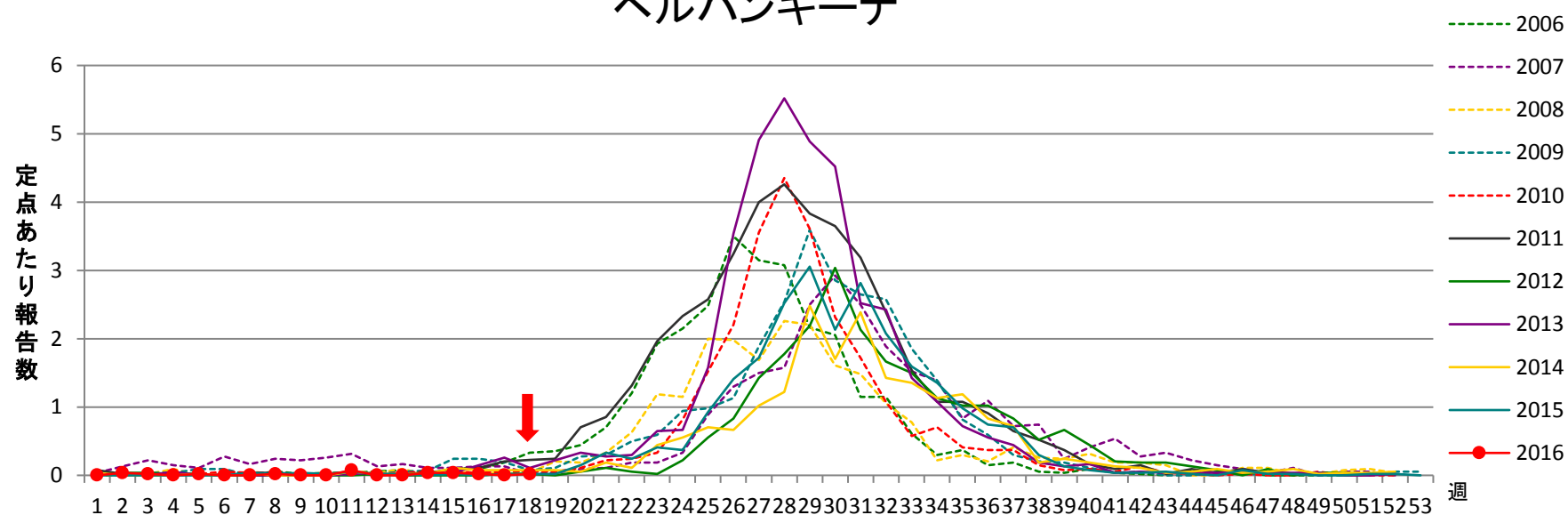
突発性発疹



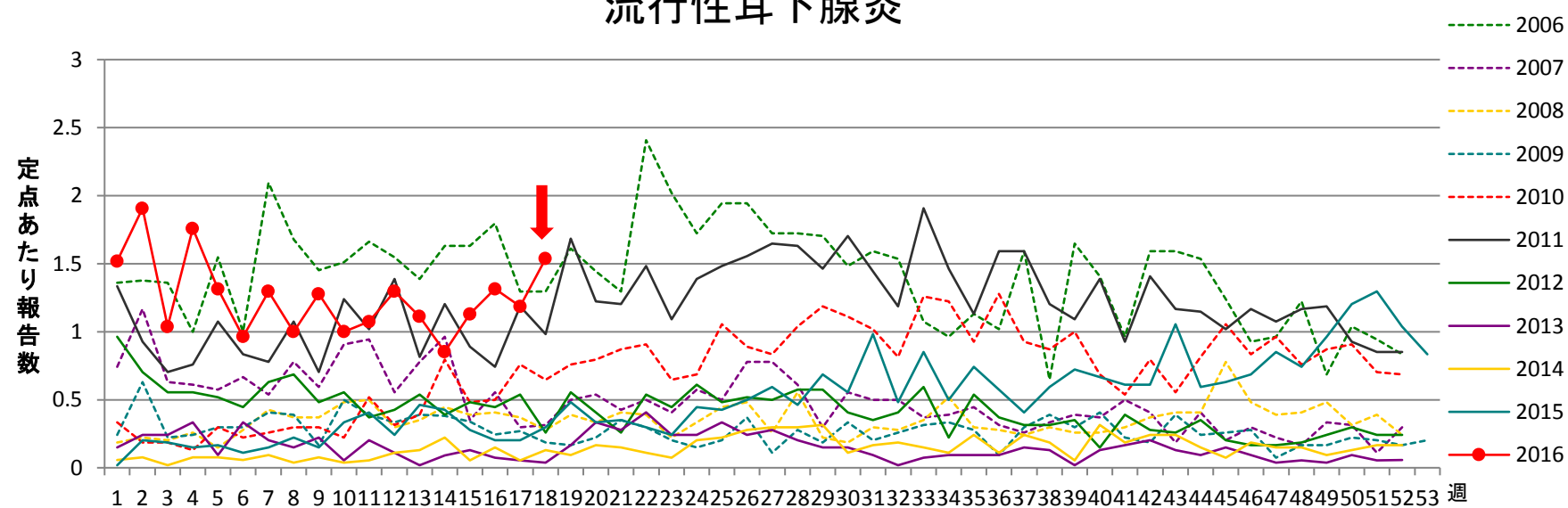
百日咳



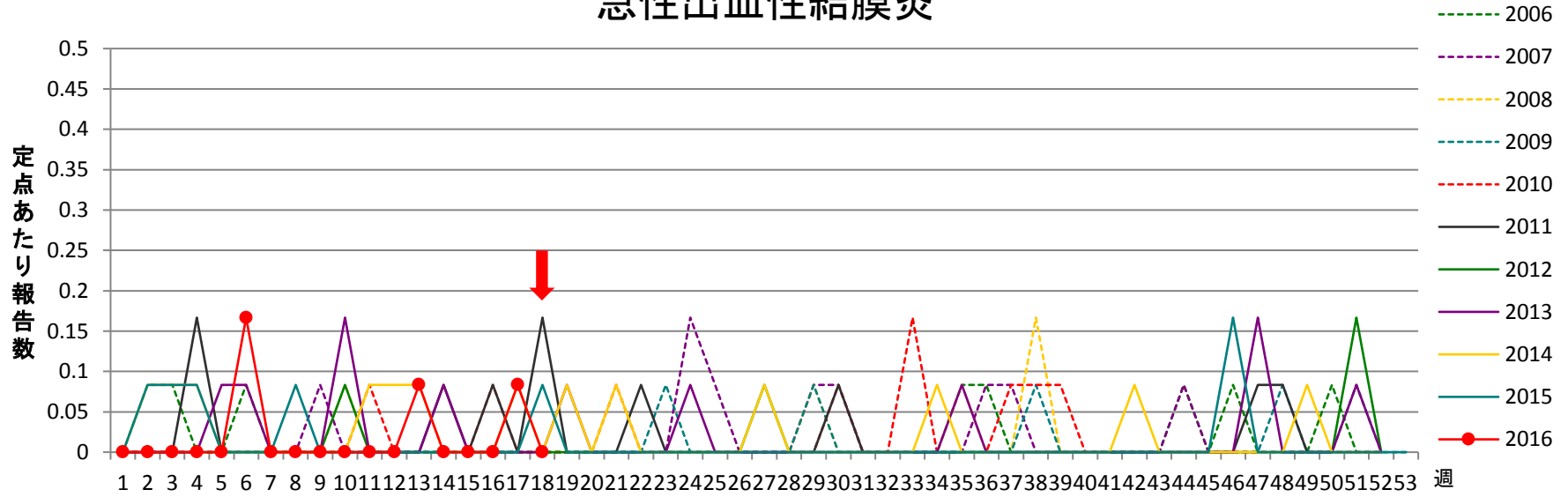
ヘルパンギーナ



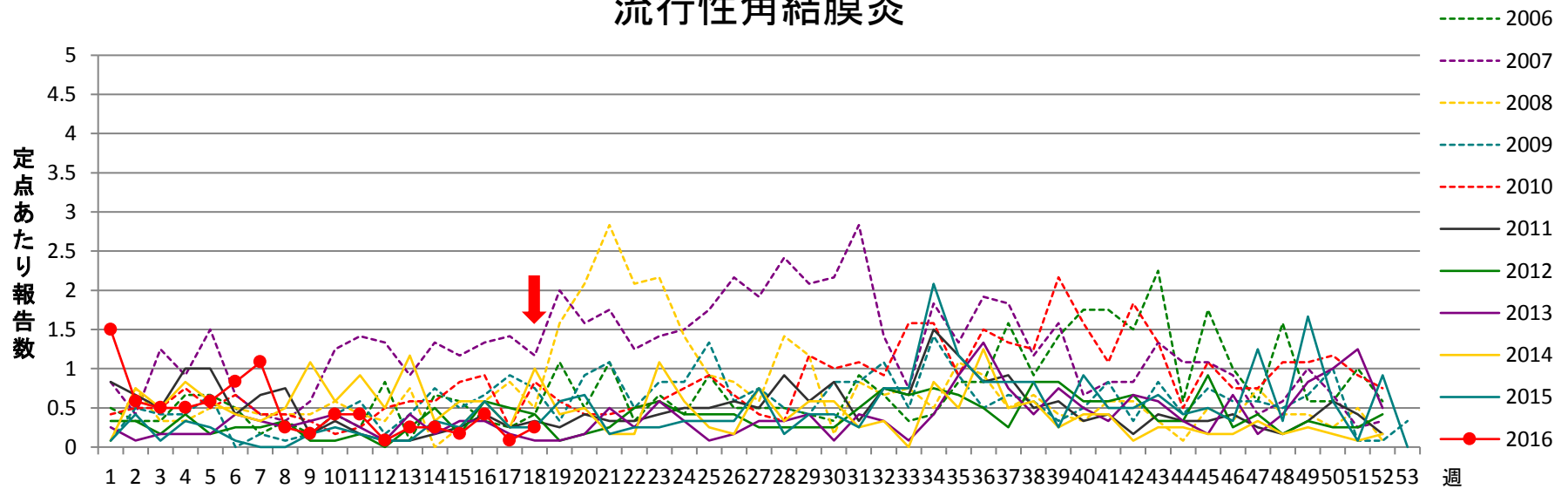
流行性耳下腺炎



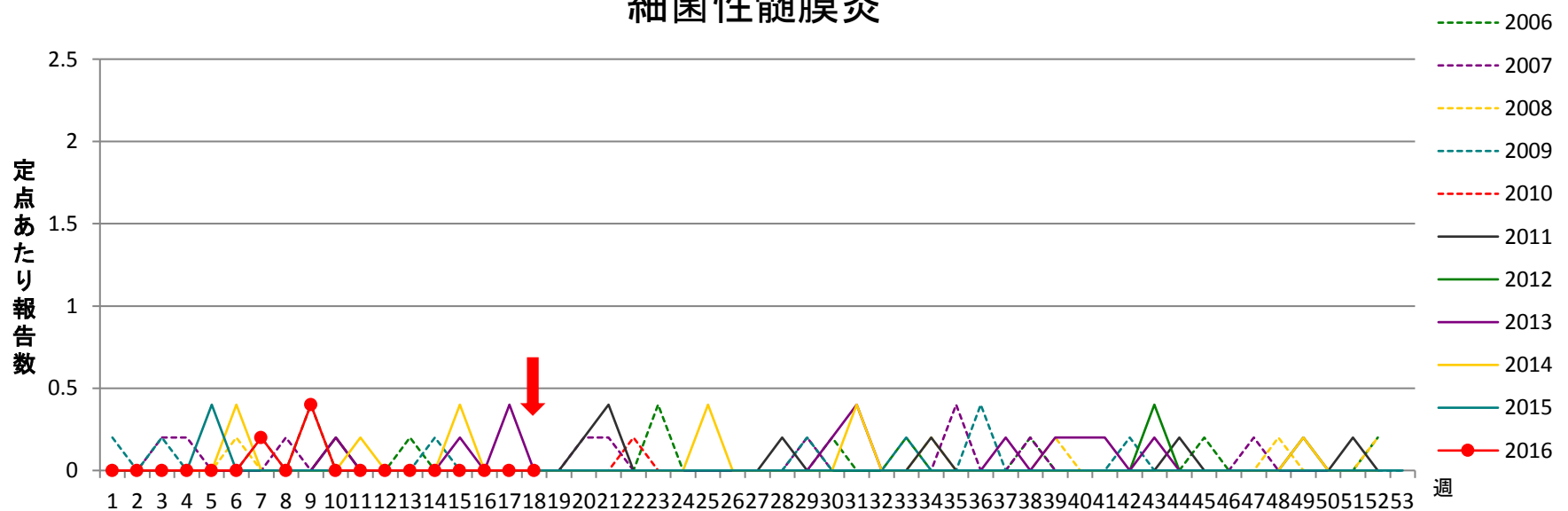
急性出血性結膜炎



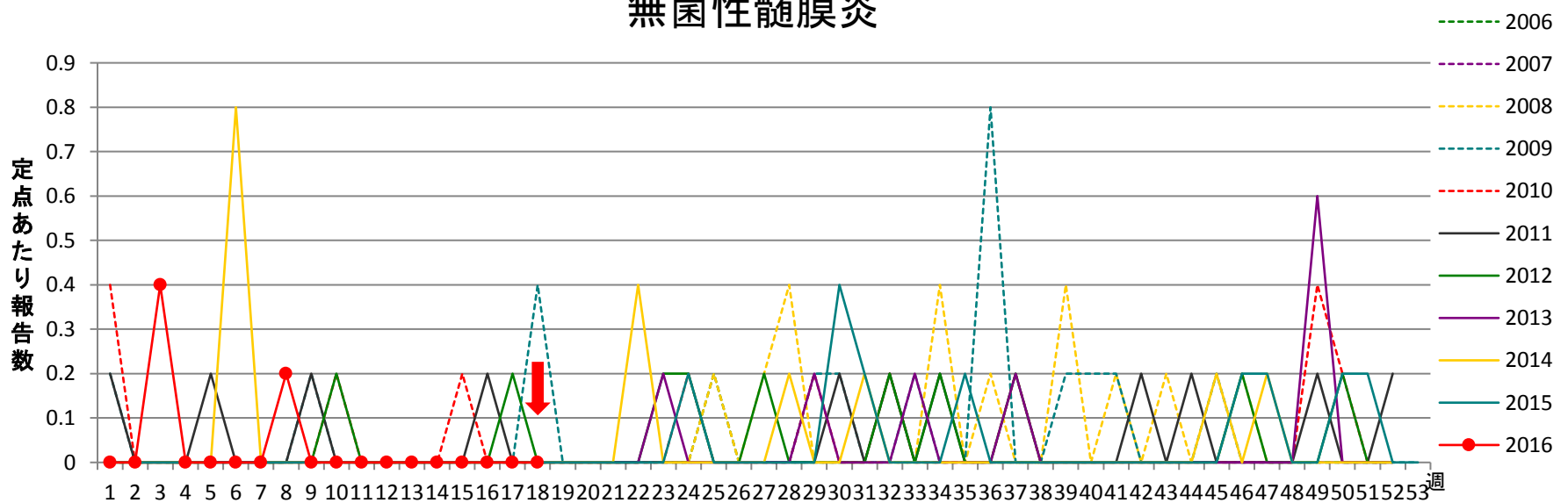
流行性角結膜炎



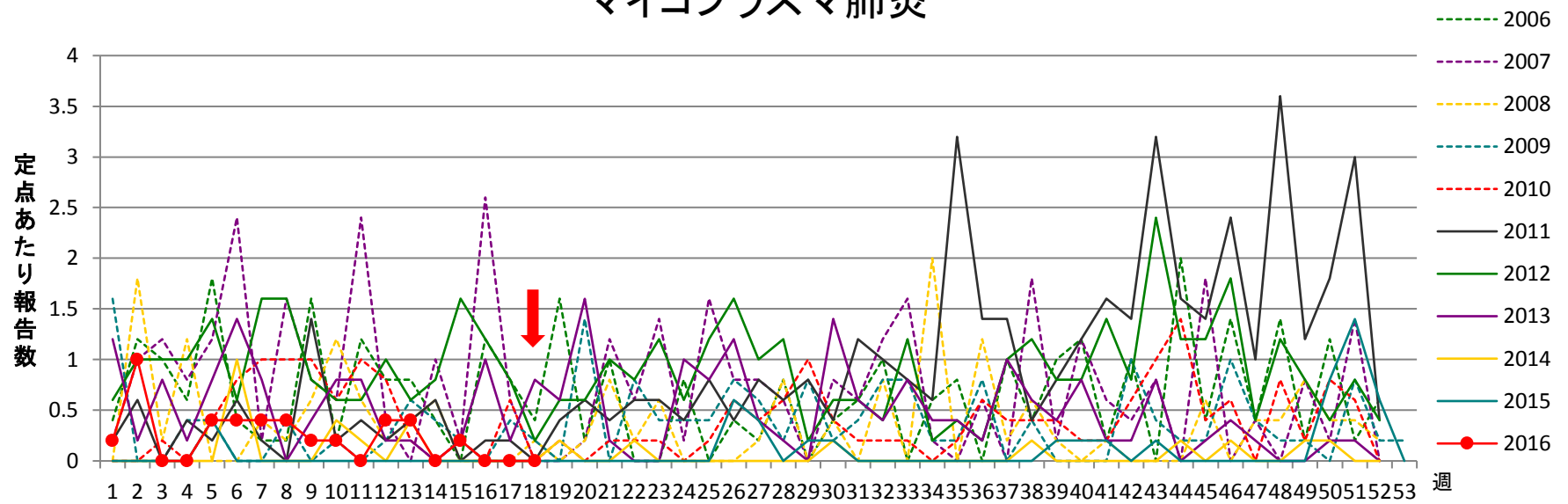
細菌性髓膜炎



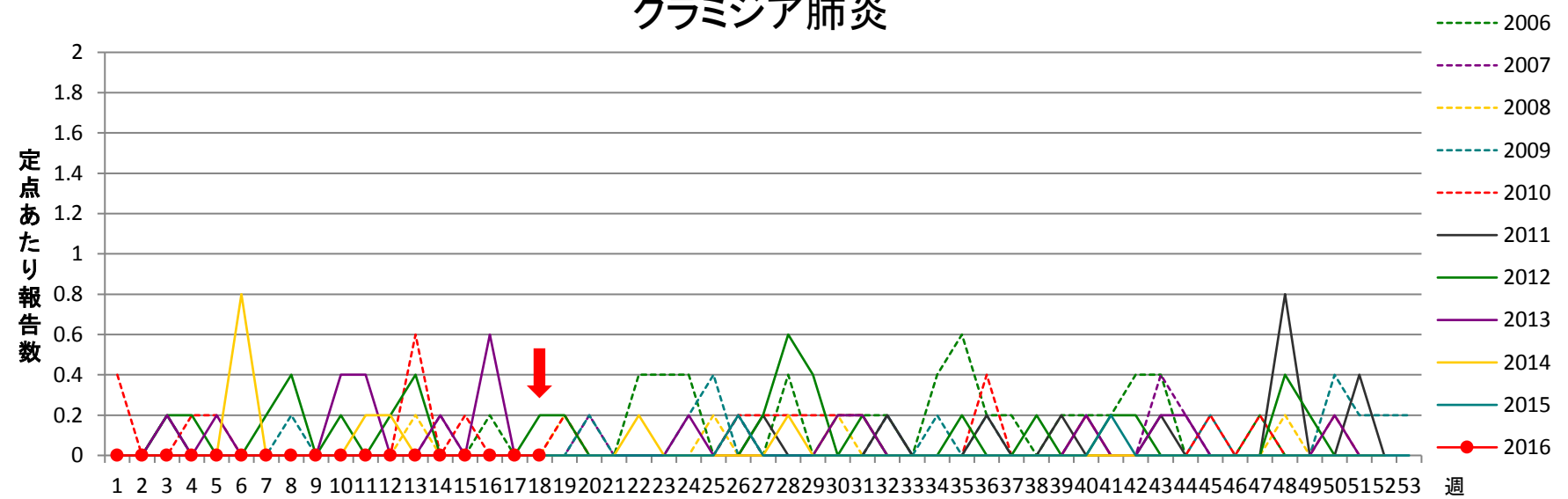
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

